

助産師が産褥早期の授乳援助を行う際に ケアを決定するプロセス

～ケアを導くためのアセスメントの視点～

看護学部 助産師養成課程

○助教 あいざわ ち え
相澤千絵

キーワード

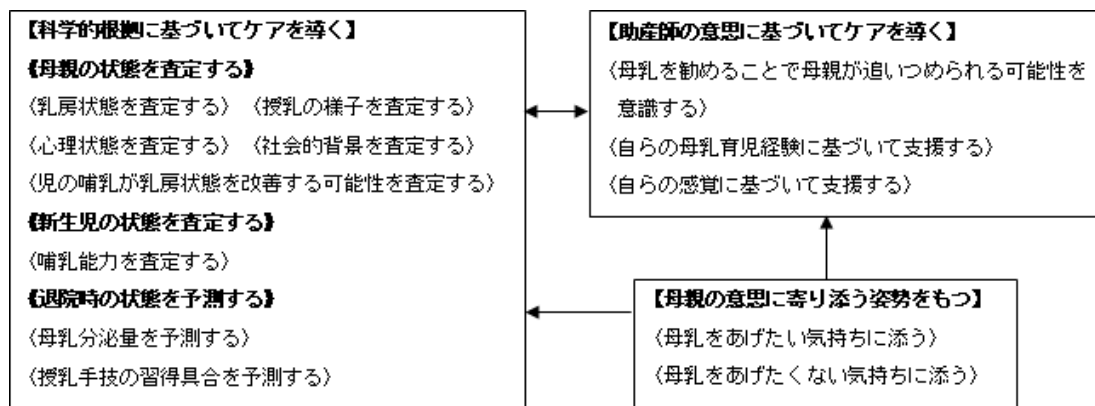
母乳育児支援, 助産師, 産褥早期

研究概要

母子の健康水準向上のための国民運動計画として平成 13 年より推進されている「健やか親子 21」では、母乳育児の推進・支援の一つとして産科医療施設での母乳育児支援が課題となっている。授乳は母親の希望が個々に異なる上に、母乳育児が確立していくまでの身体的経過は個人差が大きい。そこで、そのような母親達に対して出産後早期に母乳育児支援を行っている産科施設の助産師が、母乳育児支援をどのように考えて進めているかを明らかにすることを目的として研究を行った。兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所研究倫理委員会の承認（承認番号：教員 20）を得て実施した。

WHO/UNICEF の「赤ちゃんにやさしい病院 (Baby Friendly Hospital)」^注の認定を受けていない 4 施設の産科病棟に勤務する助産師 9 名を対象に半構造化面接を行い、録音した内容から逐語録を作成、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。研究対象者の母乳育児ケアの経験年数は 10 年～29 年（平均 17.8 年）であった。

助産師が行っている母乳育児支援の思考プロセスについて、対象者が語ったデータから 3 のカテゴリと 3 のサブカテゴリ、14 の概念が生成され、ケアを導くためのアセスメントの視点は、次のように示唆された。カテゴリ【 】, サブカテゴリ《 》、概念〈 〉として以下に示す。



注) 1989 年 3 月に WHO/UNICEF は「母乳育児の保護、推進、そして支援」するために、産科施設は特別な役割を持っているという共同声明を発表し、「母乳育児成功のための 10 カ条」を守ることを全世界的に呼びかけた。この「10 カ条」を長期にわたって遵守し、実践する産科施設を「赤ちゃんにやさしい病院」として認定している。

アピールポイント

経験の浅い助産師にとって、個別性が高い母乳育児支援は困難や苦勞の一つとなっています。ベテラン助産師のアセスメント視点が明らかになることは、他の助産師の助けになり、さらに、支援を受ける母親達の助けにつながると考えています。